TGR TEAM ZENT CERUMO

2021 AUTOBACS SUPER GT Report

AUTOPOLIS GT 300km RACE

第6戦　オートポリス

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆10 月 23 日（土）　QUALIFY

公式予選結果　10 位

2021 年の SUPER GT も終盤戦。迎えた第 6 戦の舞台は、大分県日田市のオートポリスだ。2020 年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催されなかったこともあり、九州のファンにとっては待望の開催となるレース。直前に阿蘇山の噴火もあったが、無事にレースウイークを迎えた。

ただそんなシーズンだが、TGR TEAM ZENT CERUMO にとっての 2021 年は、これまでまったくチームが期待したものとはほど遠い結果が続いてしまっている。再浮上のきっかけは少しずつ掴みながらも、なかなか結果として残らない。まわりのライバルたちが得点を重ね、シーズンで最も重いサクセスウエイトを積む第 6 戦は、まだウエイトをそこまで積んでいない TGR TEAM ZENT CERUMO にとってもチャンスのレースでもある。

しかし、そんなチャンスのレースウイークではあるが、ZENT CERUMO GR Supra は不利な条件を負っている。それは、前戦の第 5 戦 SUGO で発生したトラブルのため、シーズン 3 基目のエンジンを積むことになったことによる。SUPER GT GT500 クラスでは、規定によりシーズンで使用可能なエンジンは 2 基

まで。３基目の使用は、決勝レース中に５秒のペナルティストップが課せられる。ZENT CERUMO GR Supra は、今回レース前からペナルティが決まっている状態なのだ。

とはいえこのオートポリスはピットレーンの長さも短く、ロスタイムは比較的少ない。また荒れる展開になることも多く、十分上位進出は可能でもある。もちろんそのためには、まずは予選から速さをみせておくことが大事。TGR TEAM ZENT CERUMO は 10 月 23 日（土）の公式予選に向け、TCD の協力も得ながら改良を施したセットアップを煮詰めるべく午前 9 時 15 分からの公式練習に臨んだ。

ZENT CERUMO GR Supra のステアリングを握りコースインしたのは立川祐路。爽やかな晴天に恵まれたものの、やや風が強いコンディションのなかピットインを繰り返しつつ、セットアップを確認していった立川は、途中 GT300 車両のストップによる二度の赤旗中断をはさみながらラップを重ねたが、わずかにオーバーステアの症状を訴える。

立川は 26 周を走りピットに ZENT CERUMO GR Supra を戻すと、石浦宏明に交代。無線からのコメントを聞くと、オーバーステアの症状も軽減している様子だ。終盤、石浦はタイムアタックのシミュレーションを行い、1 分 32 秒 780 をマーク。「ミスがあった」という石浦だったが、それでも首位からは僅差の 8 番手につけた。フィーリングは上々だ。

インターバルと GT300 クラスの Q1 をはさみ、迎えた午後 2 時 28 分からの公式予選 Q1。ZENT CERUMO GR Supra は石浦がステアリングを握り、セッション残り 6 分というタイミングでコースイン。２周を費やしタイヤを温め、Q2 に控える立川に繋ぐべくアタックを展開していく。

ただ、午前とは異なるタイヤでのアタックのなかで、一度は消えていたかと思われていたオーバーステアの症状が再び出てしまう。グリップ感が少ない苦しいなかでのアタックとなってしまった石浦のベストタイムは 1 分 32 秒 782。Q2 進出に必要な 8 番手には届かない、10 番手で予選を終えることになってしまった。

エンジン交換によるペナルティストップ 5 秒というハンデもあるなかで、後方からの追い上げはやはり苦しい。しかし攻めた結果が故の結果であり、攻めなければ得られるものはない。それにレースでもまだまだ作戦によって勝ち抜くことも可能だ。長いトンネルを抜けるべく、TGR TEAM ZENT CERUMO は 10 月 24 日（日）の決勝レースに挑戦していく。

ドライバー／立川祐路

「公式練習はトラフィックもあり、僕のドライブ中はなかなか良いラップがとれなかったのですが、クルマの感触を確かめながら走りました。その時は若干オーバーステアを感じていたのですが、その点を修正していき、石浦選手に交代しました。その後は悪く無さそうなフィーリングだったので公式予選も期待していたのですが、やはりわずかにオーバーステアだったようで、Q2 進出はなりませんでした。オートポリスはタイヤに厳しいコースで、予選どおりの結果にはならないことも多いので、クルマをレースに合わせることができれば追い上げることもできると思います。一方で前戦のエンジントラブルでペナルティストップがある状況なので、これを跳ね返すのは並大抵のことではありませんが、なんとか上位進出ができるように頑張っていきたいと思います」

ドライバー／石浦宏明

「今回ペナルティストップもあるということで、新しいトライも行っています。ただ、それに合わせ切れなかったところがあるかもしれません。公式練習ではわずかにミスもあったとはいえ、トップタイムに近い速

さがありましたが、午前のタイヤと午後のタイヤでの違いに対しての合わせ込みが裏目にいってしまったような印象もあります。予選アタックではグリップ感が全体的になかったです。今回はいろいろなヒントを集め、次に繋げなければいけません。トライをしていることは無駄ではないので、今後に繋がるように進め、明日は明日で良いレースができるようにしたいと思います」

村田淳一監督

「今季も６戦目になりますが、なかなかうまく噛み合わないシーズンが続いています。それが予選日にも出てしまったような印象ですね。今回は前戦からペナルティストップは受けるもののエンジンを換え、TCD さんに協力してもらいながらセットアップなどもテコ入れしてきたのですが、その点が攻め過ぎたのか、公式練習ではタイムがある程度出たものの、もう１種類のタイヤでは特性でオーバーステアが出たり出なかったりがあったようで、その点をフォローしきれなかったのが予選で悪い方向に出てしまいました。とはいえデータもあるので、明日の決勝に向けてしっかりと確認をして、是正していきたいと思います。この時季のオートポリスのレースは、タイヤのピックアップなどもあるので、その症状をなるべく抑えるようなクルマに仕上げ、ペナルティを跳ね返せるように頑張っていきたいと思います。この苦しい展開のなかで、我々に何ができるかをしっかりと考え、奇をてらった作戦ではなく、やれることをやっていくことが終盤戦に向けても大事だと思っています」

TGR TEAM ZENT CERUMO

公式予選結果

Rank	Car No.	CarName	Q2 Time	Q1 Time
1	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	1'31.770	1'31.389
2	14	ENEOS X PRIME GR Supra	1'31.777	1'31.985
3	64	Modulo NSX-GT	1'32.068	1'31.438
4	8	ARTA NSX-GT	1'32.128	1'32.310
5	23	MOTUL AUTECH GT-R	1'32.335	1'32.622
6	37	KeePer TOM'S GR Supra	1'32.728	1'32.699
7	17	Astemo NSX-GT	1'32.828	1'32.689
8	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	1'33.078	1'32.434
9	24	REALIZE CORPORATION ADVAN GT-R		1'32.726
10	38	ZENT CERUMO GR Supra		1'32.782
11	12	CALSONIC IMPUL GT-R		1'32.853
12	36	au TOM'S GR Supra		1'33.012
13	1	STANLEY NSX-GT		1'33.070
14	19	WedsSport ADVAN GR Supra		1'33.174
15	3	CRAFTSPORTS MOTUL GT-R		1'33.333